

ガンコ親父の

「へ、次男坊も結婚したのか。いいなあ、お前んとこは」と、三十路の
 独身息子を持つ旧友はうらやましそうな顔をして嘆いてみせたが、それでも
 久しぶりの帰郷に満足そうだった。友人は「あまみシマ博覧会」のニュースを
 聞いたら、もう居ても立っても居られなくなって帰ってきた、と顔を掻いた。
 「とにかくあの頃、お前は走るのが速かったなあ」と友人は懐かしそう
 だった。「二人にあの「祭りの日の記憶」が送って来た。東京で行われたスポーツ
 の祭典、あの1964年の祭りの日、偶然にも中学のクラスで「マドンナ」と
 呼ばれる美人の同級生に出くわした。妹らしき女の子を連れてきているが、
 その浴衣姿の二人は道に視線を落としながら、探し物の最中のようなだった。
 ドキドキしながら二人はマドンナに声を

かけると、小学生の妹が小銭入れを何処 奄美黒糖焼酎



「おばあちゃんから作ってもらった小銭入れ
 なの」と、その子はほつりと元気なく言った。
 その一言が純粋な松次郎のハートに火をつけた。
 中身のお金は多くはないというが、おばあちゃんの
 愛情が詰まった小銭入れというわけだ。
 何とかしなければ若い松次郎は思った。

頭の回転はお世辞にも速いとはいえないが、脚の
 回転だけは自信があった。少女に立ち寄った場所と
 小銭入れの特徴を聞くと、脱兎のごとく一目散に駆け去っていった。
 待つこと十数分。獲物をくわえた狩猟犬さながらに、
 意気揚々と「島の超特急」の松次郎がみんなの前に姿を現した。
 そして、何事もなかったように捜し出してきた赤い小銭入れを
 少女にすつと渡した。

少女はその出来事が忘れられずに「世界一速いおにいちゃん」といっ
 作文にまとめ、学校に提出した。その後、新聞にも掲載されることに
 なり、一時期話題になった。
 「走るのが遅いだけでなく、本当に松の「人間性は素晴らしい。
 君のお父さんに俺がこうやって会いに来るんだから。その時のことは、
 けっしてマドンナの妹だったからではないんだ。そうだと思うよ」と
 友人は妙に強調し、ウインクしながら花菜に
 言った。花菜は立ち上がり、「私もそうだと
 思います。はい、これお父さんに」と言って、
 隠し持っていた手作りのお金メダルを松次郎の
 首に駆け付た。あのかす玉のお札にと、花菜が
 いつか渡そうと金色の折り紙で
 作っていた金メダルだった。

友人は「ハハハ、今年、日本の
 金メダルもこれで一個増えたわけだ、
 めでたい、めでたい」と拍手をした。
 花菜に金メダルをもらった松次郎は
 上機嫌になり、しつこく「飲んでけ」と友人を
 引き止め、花菜にしまっちゃん伝蔵を用意する
 ように頼んだ。松次郎はあの年、まだ中学生
 だったけど、もし10年後の俺だったら、
 100m競技で本物の金メダルを取っていたかも
 しれないな」と、酔いに任せて話を
 過激に膨らませた。

「私ももらっていいですか」と
 花菜がロックグラスを差し
 出すと、意込に下げた風鈴が
 チリンと鳴った。久しぶりの
 友人と息子の嫁、二人に
 囲まれた気持ちの良い夜が
 笑い声とともに過ぎて行く。

25度
好評発売中



喜界島酒造株式会社
 鹿児島県大島郡喜界町赤連2966番地12
 0967(65)0251

2009年10月酒類改良法
 「日本で最も美しい村連合」
 に選ばれ、加盟しました。
 喜界島酒造は、この活動に
 賛同しています。



the most beautiful
villages in Japan
喜界町
きぎま



伝蔵
 常圧蒸留
 奄美黒糖焼酎

昔ながらの手造り
 こだわり焼酎
 喜界島の豊かな自然の恵と昔
 かな自然の中で、永年の伝統
 に受け継がれた製法でじっくり
 と醸しあげた「しまっちゃん
 伝蔵」 蒸餾熟成の味を全面に
 出し昔ながらのコクのある味
 と香りです。

金メダルに乾杯!